



Question

平川・いつも以上に
プレッシャーを
感じませんでしたか？

平川・ずっと、年間チャンピオンを
獲つたら喜び叫ぶのかなと考えてい
たんですけど、意外と何ともならない
かったです（笑）。どちらかというと
ほっとしたという感じです。

キャシディ・普段、僕はクレイジーで
うるさいヤツなんだけど、今日は亮が
ゴールラインを越えた時、静かに喜び
を感じたよ。彼に「ありがとう」と言っ
てハグをしたよ。落ち着いているよう
に見えるかもしれないけど、特別な気
分だし、これでもちよつと感動的な気
持ちになつてるよ。



Question

初戦と第7戦（タイ）で
ポールトゥーウインを果たしました。
特に第7戦は、タイトルが目の前に
ぐんと近づきましたね。



Question

もてぎ戦の決勝スタート直前、
前の2台が接触したとき、
どう感じていましたか？

平川・そうですね。タイの予選で一氣
に流れが変わったと感じました。
キャシディ・僕たちはシーズン中盤の
マンスを持っていたけど、ウエイトハ
ンデが重くポイント稼げなかつた。
でもチャンピオンシップではトップ
と僅差だった。速さには自身があつた
ので、それをパフォーマンスにつなげ
られたタイの予選は重要だったと思
う。

11月11日(土)・12(日)、SUPER GT 2017シリーズ最終戦がツインリンクもてぎ（栃木県）で行われた。この時点では37号車「KeePer TOM'S LC500」がシリーズランキング1位。ランキング上位3陣営のマシンが逆の順番で予選1・2・3位を占めるという、何が起こるか予想のつかない展開となつた。37号車「KeePer TOM'S LC500」は予選3位で3番手の決勝スタート。決勝のローランクスタートでの開戦直前に前を走る2台が接触。37号車「KeePer TOM'S LC500」は2位へと浮上。荒れるレースとなる予感をさせながらも、37号車「KeePer TOM'S LC500」は冷静な走りで2位をキープし、年間チャンピオンの座を奪つた。

Question

年間チャンピオンを
獲得した瞬間の気持ち
はどうでしたか？

るかということだけを考えていたの
で、そんなに大きなプレッシャーは感
じなかつたです。予選では（予選1位
となつた）ニスモに流れが行きかけて
いるかなと感じましたが、チームと僕
たちの力でそれを引き戻せたと想
います。

キャシディ・タイ戦、もてぎ戦は特に
プレッシャーが大きかつたけど、うま
くやれたと思う。プレッシャーはあつ
ても、リラックスして臨むことができ
たから、良い結果を得られた。この経
験は将来にとつてとても良いものと
なつたと思うよ。



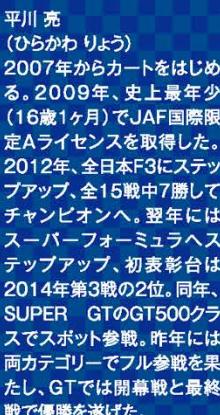
Special Interview

GT500、2人の最年少チャンピオン



SUPER GT500 KeePer TOM'S LC500

平川 亮／ニック・キャシディ



SUPER GT 2017シリーズ、「LEXUS TEAM KeePer TOM'S」は年間チャンピオンの座を獲得。年間チャンピオンへと導いたのは、若干23歳の若手コンビ、平川亮選手とニック・キャシディ選手だ。37号車「KeePer TOM'S LC500」は2人の冷静かつ熱いドライビングは、多くの観客を魅了した。最終戦のツインリンクもてぎでのレースを終えたばかりの2人に直撃インタビュー！



**Nick Cassidy
(ニック・キャシディ)**
2000年からレーシングカー
トをはじめ、2008年には母国
ニュージーランド・オーミュ
ラ・ファーストで4輪デビュー
し、シリーズ2位と最優秀新人
賞を獲得する。2012、
2013年連続でヨタ・レーシ
ングシリーズに参戦し、シリ
ーズチャンピオンを手にした。
2014年には初参戦したマカ
オGPで3位を獲得する。一昨
年来日して全日本F3にデ
ビュー、チャンピオンを獲得。
GT参戦は昨年から2年目とな
る。